THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年五月二十五日

定價金四錢

女學雜誌

第六十一號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

（女學叢誌）投書家に告げ併せて貴夫人令嬢に望む●（中外新報）十數件●（學藝一斑）食物の事●（手藝一斑）毛糸編物●（列女傳）露の下とれ（書入）●（論説）學生の心得（穂積陳重君述）○女子の体育（櫻井錠二君述）●（新作物語）閨の徹夜燈（書入）●（家政要報）數件●（御伽草）數件（寄書）伊勢物語ハ詞花言葉のみを事とせざる説●（英語獨修）ナーショナルリードル直譯

女學叢誌

○投書家に告げ併せて貴夫人令嬢に望む

男女の交際開けずんバあるべからず進んで男女の交際を開くべしとハ余輩屢々本誌上に於て論じたるところなるが近きころに至り態々余輩に書を寄せて男女混同の交際と開くは風俗と紊り徳行を破る事のなきと保ちがたしとて喋々辯じ越されたる向き甚だ多く其いふ所と略言せば男女の交際を開く事ハ理論の上に於てハ固より然らずんばあらずと初めより記者の論ずるが如く我々（投寄者諸君といふ）の同意するところなれども今の日本會社にありてハ實際に行はれ得ざるを如何にかせん既にまのあたり某の夜會某の蹈舞會に於て云々の事ありしと聞え某の會員にハ斯る事ありしとぞ聞きしなどろのいふ所ハ大概同じきが中よハ言語に絶えたる事ども告げ越されたるもありその書ハ机上に積りて堆きまでなれども余輩ハ遽に斯る報道と信じて輕々しく事と論ずるを好まず且つ本誌ハ社會の醜聞を廣布するの具にもあらざるがゆゑに投寄の勞は謝すべくその説ハ去る事ながら束ねてろが儘うち捨おきたると頃日再び書を寄せて何故に斯くハ等閑なるぞ常に風俗の改良を論じながら何とて斯る事をバ痛論せざるぞ先の投書をば疾く誌上に掲げよと余輩を責めたてらるゝもまた少しとせず却てまた當舍の探訪者も先つころより屢々余輩に報道して或る夜會に於て云々の事ありしと聞き込みたり某の蹈舞會に就きて云々の風聞あり何會の會員中にハ云々の行ひありし斯る有樣にてハ到底男女の交際ハ風俗と紊り女風の改良望むべからずいざ筆とりて痛論あれよと誌上の材料ならずやと鼻動めかしいと誇顔に述べ立たれども之をも尚ほ余輩ハ措て顧みる所なかりしかば此頃に至りてハ探訪者も餘りの事に思ひ余輩の省せざると憤ほりてや眼に角たてゝ記者の机を叩きながら何とて屢々報道せる事をバ載せざるぞ如何なれば論ずる所なくて過ぎつるぞ左てハ折角に聞き出し探り得たる新聞もものの用となさずして埋れ果つるぞ口惜きわたら畫餅骨折りたりけるいで此後ハ餘りに探訪の怠りをな責め給ひろと頻りに余

輩と詰りたり斯く内外より督責をうくる事の急なるより今ははや默止がたかる勢ひにぞ迫りたりける左ても余輩は考一考益々斯る報道と輕信する事能はざるの實あるを如何にせん聊かそのゆゑを述べて以て外は投寄者諸君に謝し内には探訪者の怒を寛うし併せて貴夫人令孃に望むところあらんと欲するなり抑も我邦に於て男女うち混じての交際の開らけ初めたるは僅に兩三年を出ざる以來の事にしてその區域もいと狹く漸く上流に位さする御方々貴夫人令孃の間に行はるゝに止まり此所の夜會彼所の蹈舞など之と催はさするも招かれて集會はせらるゝも皆やんごとなき御方々のみにして未だ廣く民間に行はるゝにはあらざるなり斯る御方々の歐米の禮式をも移し用ひてうち集はする事なれば禮義整肅にして品行の嚴正なるは申すまでもなくその中に交らはする貴夫人令孃は皆深究に養はれ萬内端に成長なし給ひ人慣れ給はざる御素性なるにも拘らず時としては殆ど空日なきまでゝ此所彼所の夜會に招かれ更たくるまでも蹈舞をなし或は慈善會ゝ賣子となりて自ら其勞と取り給ふなどは地下の人々にありては去る事ながら斯る御身柄もて其痛さともつゝ厭はしき御氣色なくまめ立てよく勉め給ふは御方々自ら振はせ下流なるものゝ模範となり世

を導くの御心に出たるがゆゑの外ならずしていと有かたき事ゝぞあるさらぬも人の上に立て禮義品行の嚴肅なる御方々の況て自ら人の模範となり世の開進を導かんと期し給ひたる集會に於て何どて左右申そべき事のあるべき然るに纔に左や右沙汰そるは世の開明を妨げ斯く有難き御方々をも傷けんとの腹黒き所爲に出たるゝて殆んど我が投寄者諸君をも誤り余輩も共に誤られんといしたりしなり是れ余輩は内外より受くる督責の急なるをも措て顧みず遽にその報道を信せさる所以なり去るにても斯る譏らでとの生ずべき間隙あるが爲ならざるなきかと余輩甚だ之を危むなり蓋し貴夫人令孃に男子の交らはするに際り餘りに寛容に過ぎて威嚴に欠けさする所なきかを危むなり因より我舊染の習慣を一朝にして破らん事容易の業ならずとはいへど從來男子の婦人に對する時はその言語動作につき露愼むべき覺悟なく婦人もまた男子の不敬を咎むべき威嚴なく却りて婦人の男子に對する時はその言語動作を愼むべき習俗なりしがゆゑに兎角に貴夫人令孃の寛容に過ぎさそるも去る事ながら歐米にありては男子の婦人に對する時はその言語動作を愼み猥褻なる事は勿論慘酷なる物語などさへなさゞるの風俗にて苟くも不敬を犯たる者ある時は痛く之を

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

雜責むる事もあるべくさらぬも其席を起ちて斯る男子と共に交はるを屑よしとせざるがゆゑに自と男女交際上の風儀の正しかるれいと亂はしき事にぞある新事業を起し新風俗を行はんとする初に當りてハ寛容ハ固よりの事なりとれいへ我が貴夫人令孃に於ても一層嚴威を持ち給ひ苟にも無禮なる言語動作の男子あらんにハ之を咎めもし給ふべきハ勿論さらぬもろの席を起ちて復た斯る男子と言語を交へざるの見識を行はせ益々進んで男女交際の道を廣め其風儀を正し以て世の開明を助け社會にろの模範を示させられんにハ何事の譏ら人ゕ左右いひ罵るもの〻あるべき是れ余輩の貴夫人令孃に望み參らする事にぞありける

◎中外新報

◎華族女學校へ行啓　皇后宮にハ去る十七日華族女學校へ行啓あらせ初等中學第三級生の書學科(教師加納欽)上等小學第三級生の讀書科(教師津田梅子)高等中學第三級生の生理科(教師色川國士)等の授業を御覽せたまひそれより生徒一同の唱歌を聞しめされ午後にいたり御けしきいと麗はしく見えさせ給ひて還啓あらせられぬとぞ承はる

◎華族方の令夫人令孃　ハその最より／＼或ハ部分／＼によりて中にハ一週間內に幾回となく寄りつどはせて相互ひの交際のいと親密なる方々もあれど中にハいまだ嘗て互ひに遇ひ見させたる事もなき程の間がらなるが在するもあり同じ族籍にありて同じ都府に住みながら斯る情況にてハよろしからずとて今度在京華族方の令夫人令孃の舊公卿大名またハ新華族の區別なく平等一樣に親睦交際して婦人社會の品位を高尚になし世の開明を助くべしとありて華族婦人交際會といふを設立せんと頻りに協議せらる〻方々ありと聞えたり固より何種のものにても結合の區域ハなるべく廣からん事こそ望ましけれ殊に何縣人交際會などの如き地を限りて結合するなどハ記者などの甚だ喜ばざるところなり

◎養育院慈善會　前號にも記せる同慈善會ハ愈々去る廿日より廿二日まで三日間內山下町なる鹿鳴館に於て開らかれたり見聞のま〻の概略の狀況を記るさんに門內にハ國旗をうち違へてあり玄關前縱覽人の入口にハ丸束の幕を張り左りにハ陸軍々樂隊の奏樂所を設け館內正面の階下及び階段を上りたる所に盆栽の陳列あり夫より第一區(高崎令夫人銀林令夫人太田令夫人高崎令孃伊集院令孃が販賣方受持)第二區(芳

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

川、井上、松田、高橋、谷元、種田、比企號の令夫人受持）室にハ和服裝の衣服地附屬品第三區（三嶋、高木、實吉、渡邊、山本、岩谷等の令夫人三嶋令孃）第四區（渡邊、高崎、高嶺、中井等の令夫人田中、福地、小嶋等の令孃）ハ和洋混合の小間物玩弄品繪畫類にて別の級段にハ府下諸大家の揮毫せられたる書畫の扇面を陳列したり第五區（澁澤、大倉、益田、川村、喜谷令夫人澁澤、梅浦両令孃）第六區（穂積、澁澤、両夫人、伊達、サンマース、田村、西園寺、山田令孃）ハ洋服地及び附屬品また貴夫人令孃の自製と聞えたるレース毛糸編もの等にして階を下り第七區（笹瀬、志摩、石川等の夫人立田、櫻田、澁澤、津田、嶋海、岩谷、長等の令孃外三名）にハ和洋の菓子コッヒーと供へ夫人令孃が自ら茶を進め菓子を出さるゝハ良けれど時として強て菓子を賣り附けなどせらるゝ模樣ハ餘りにお世辞のよきを以てチト下品なる所ありて恰も○○のチーさん染たりといひしものあるハ言語同斷の評ところいふべけれ

○慈愍學校　本郷區最よりの各寺院申し合せ慈愍小學校といふを設けらるべしとハ兼て聞き及びたりしが愈々駒込蓬萊町の高林寺内へ設置する事と定まり護國寺の住職高志大了、吉祥寺住職三井海雲、傳通院住職松濤泰成等の諸氏が發起者となりて先きころ其筋へ出願に及びたるに許可ありしにより去る廿二日開校式を行はれたるよしなり此學校ハ滿六年より十四年までの女兒にして就學の資なきものを無月謝にて書籍具器等をも貸し與へ就學せしむるの慈善貧學校なりといふ

○日本村の日本婦人　英國ロンドン府に設けある日本村の觀せものハ日本人の耻さらし塲なりとて一時ハ喧はしかりし事なるが此塲に雇はれ居る日本婦人等ハ同國女皇陛下の即位五十年節と祝する爲めに建設する紀念標の費用中へ六シルリング半づゝを醵金して寄附したる由なれども信僞ハ知らず

○明治女子職業通信教授會　にてハ本日より毎月二回づゝ雜誌と發行して會員に頒布するよしにて職業の種類ハ裁縫をはじめ外十餘種の手細工なりといふ

○蹈舞の教授　建築局雇獨逸國樞密參事官エング氏ハ舞蹈に堪能なる人のよしなるが今度自ら望みて舞蹈會員たる夫人方へ舞蹈を教授すといふまた同會員ハ去る十六日鹿鳴館に於て稽古會を催はされしよしに聞く

○蹈舞温習會　木挽町二丁目十三番地中村コマ子の發企にて去る十九日厚生館に於いて題號の會を催はされたるよしに聞き及びぬ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○婦人服　前項に養育院慈善會の事を記したりしが記者の執筆中或る舍友が來りて去る日曜日に鳥渡鹿鳴館の慈善會にいたりたりしが殊に目だちて見えたるハ販賣受持の貴夫人中舊樣の日本服にて出たゝれたるにて何となく茶屋女の趣きありと見たりしが斯る場所へハ必ず洋服にてあられたらんにはと評したり

○成立學舍女子部規則（第五十九號の續き）　卒業生にハ卒業証書を與ふへし」平素の品行殊に正しくして試業の成績優れるものにて褒賞を與ふる事あるべし」生徒の募集ハ毎學期試驗の時に限るといへども時宜により臨時試驗の上相當の級に入學せしむる事あるべし」入學のせつハ當府下にあるその父兄若しくハ身元慥かなるものを以て保証人となしその証書及び履歷書と携へ共に來舍すべし」束脩および受業料等ハ左のごとし○束脩金二圓○全科受業料一ヶ月金一圓五十錢○撰科受業料（修身、心理學、衛生、家政、編もの、刺繡、押繪、組糸、圖書、挿花、茶湯）一ヶ月各三十錢（和漢文學、理學、裁縫、割烹）一ヶ月各金五十錢（英文學、唱歌、音樂）各々一ヶ月金七十錢但し二課目以上を兼ね修むるものハ四分の一を減す○敎場費ハ一ヶ月金拾錢なりとす

（完）

◎學藝一斑

○食物の事（前號の續き）

食物の細包の中に入るハ時として固形體の姿となせる事あれども大低ハ溶解して入り込み決して氣體にて入りこむ事なきものなりこの溶解物にハ水分甚だ多く即ち水ハ食物を運輸するものといふべきなり是れたゞに人に於て然るのみにハあらず他の動物また植物に於てもまた然りとす人體の百五十四ポンド（即ち十八貫四五百目）のものを分析するにその中五十ポンド（凡そ六貫目）ハ筋肉中にある水にして血液の中に九ポンド（一貫八十目）骨の中に五ポンド（六百目）の水あり斯の如く多量の水によつて生活せるを見れバ人間ハ水中に浮きつ沈みつして生活するものといふも差したる誤ちなかるべし此水ハたゞに食物を溶解して夫々へ運輸するのみならず勢力をもまた運輸するものなり

斯くて食物の種類を分つ時ハ左の五種となる即ち第一ハプロテイド第二ハ炭酸水分（澱粉性及び糖分）第三ハ脂肪第四ハ灰類或ハ礦物（鹽類）第五ハ水なりとすプロテイドといふハ蛋白の形をなし窒素より成立つものにしてその分子他の物質より

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

稍大いなるがゆゑに體中各部へ入りこむべきものにあらず炭酸水分ハ溶解して各部に散布すべき物質にして是等の諸質ハ消化する事至つて難く血中に入りたるのちも尚ほその躰のまゝなる事ありされど是等の物質をば盡とく消化する事能はずたゞろの幾分を消化體中に散布する事なり脂肪ハ固形躰のまゝ躰中に入りこむものと見えたり

（以下次號）

◎手藝一斑

○毛糸編もの

風領の編かた　幾つにても好むところに隨ひて踏したをあむごとくに編みはじめ初めの一行をバまづ平あみに編み糸と前に取り一つ抜きまた糸をうらへ廻はして一つあみこの行の終りまで繰りかへして糸を前に取りて一つ抜きまた糸をうらへ廻はして一つあむべし

第二行もまた第三行も編みをはるまで右のごとく編みゆき風領の大さとなりたるとき編を止むべし

こゝにいふ編方に用ふるハ第五號の木製のピンにして四筋よりの毛糸を用ふる時ハ別して美麗なりその色各ハ小兒と大人とより選ぶところ異なるべし

◎列女傳

○露の下をれ　（上）

竹廼屋壽々女　記

一人の好むところ其善人たると信ずべき乎衆人の惡むところ其善人にあらざると信ずべき乎一人私なり易く衆人迎ひ易し然らバ則ち惡くにか從はん只君子の明に依のよみ」ト讀みさして書物を置き太息ながらに獨言「思ひ廻せハ廻そ程おいたはしいハ兄上さま丁度去年の今ごろなりし母さまにも御相談なく急に學校を辭職になり夫からしてハ是までにとんとお出もなかりし人が入替り立換りお咄しに來らるれば兄さまも亦其人の許を切々尋ねられいつも深夜になるまでも何やらヒソ〱お噺しをなされて居られし夫さへも不審な譯と思ひしに去年の七月初日からハ如何なされしか朝夕に蒼蝿やうにお出の人かフツヽリ顏さへお出しなさらず又兄さまも其後ハ前に反りて他出とされず日々一室に閉籠り書物のみ讀んでお出ゆゑいよ〱案じられしうち那母さまが御壯健の頃とて一日墓參りにお出掛なされた其跡ハ兄さまばかりを幸ひとお側へ行て夫となく世間ばなしゝした後に疾より一寸御樣子を伺ひたしとハ存じたなれど入らざる女子のさしで口とお叱り受けん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も測られねばッヒ御遠慮として居りしが今日ハ母さまもお留守ゆゑ御叱り受くるを覺悟よて押て伺ひ申ますが此頃ハ遊歩もなされず毎日斯うして御本のみ讀でお在になりますハ第一お身の毒でもあり殊にどうやら御心配の樣子もお顔に見えますが妾も貴兄や母さまの年月厚き御丹精にて物の道理の一通りハ心得て居りますればお助けとハならずともお胸の中と明されて御相談も下されたら是に上こす喜びなく又少しハ御思案の足よもならふ事もやと存じますゆゑモシ兄さま眞身の妹と思し召さば深い次第ハお噺しなくともッヒ一言斯々と打明て下されよとお願ひ申した其時に兄さまハ機嫌よく其心配ハ嬉しいが此身が目下勘考をして居ることハ婦女等に只今噺そも無益なれば今暫らくハ心配せず打捨てゝ置くが宜い其うちにハ自然ら斯ういふ事でありしかと判然分る事であらふ夫より其方ハ母さまのお歸りなきうち内外の掃除を奇麗にして置きな又お歸りがあつたなら直に洗足を上げるやう湯の用意と忘れまいぞと仰やッたまゝ机に向ひ又も御本を讀まるゝに斯くてハ容易に明かさるまじ勿躰なけれど一時の策略お腹を立せた其上でと思案をかへて進み寄り是ほどまでに伺つても打明けて下さらぬハ矢張いりぞや母さまが若やとお噂なされた

通り親の許さぬ不義密道イエアノ藝妓か娼妓とかに馴染でさしものお心志も腐り果しに違ひないサ、ろの證據にハ先比中直に歸ると仰やつてお出掛になりながら何時でも早くお歸りになつた例しのないのみならず今までとんと召上りし事のないお酒さへ折々飲つてお歸りのハ卑しい勤めをする者の手管に乘つてのお行狀かふ然りとハ知らず那の時に母さま決して其樣な御心配にハ及びません日來からして物堅き兄さまなればば何でマア其樣事がありませうか及ばずながらも朝夕のお世話を致して居ります此身若し毫ほども其樣な氣色があれば私しが直に夫と勘付ますれど夫ハ〳〵正しいお身と保證ましたが今となり産の母娘の中ながら耻かし過て顔向がなりませぬと心にもなき惡口をいふ苦しさ果して兄上立腹せられ兄に向つて不義呼はり失禮至極と打振立て罵しられしを兼ての覺悟爰ぞと思へば阿容たる色なく其御立腹ハ聞えませぬ他人なればイザ知らず實の妹が是程にお案じ申して伺ふに婦女に談すも無益との只一言で刎付たまふへ隨分淋き御心底斯くてハいよ〳〵不行跡をなされてお在の事ならん夫とも理由と語られて妾ハ更なり母上のお疑念を晴らさせたまふか如何よ〳〵と詰り問ふ心の外のいひ分を兄上實にもと思はれしか暫時思

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

案に沈まれしが打ほゝ笑れて妾に
向ひ斯くまで此身を不審るゝ最と
心得ぬ事なれど告げずに物を思は
せんも慾然の事こそえいひ聞かさん
耳を貸てと仰ッた其時の嬉しさハ
今とて忘れハせざれども扨何事の
御思案かと耳語かれしを聞く時ハ
素より當時の事情に叶ひし至當の
お企て然バかり立派の事なるをな
どて斯くまで包まるゝかハテ心得
ぬ譯柄と又も不審を増したれど此
上强て糺さんもと思ひ返して元の
座に直りしを兄上にハ尚も念をバ
入れられて今まで總て何事も其方
に告げざる事のなきに是のみ更に
告げざりしハ一身の大事にあらず
國家の大事にあるならば婦女に告
げて何にせんと思ひしまゝに露ば
かり口へも出さずありしなれば他

二百八十九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

人ハ勿論母上へも此事ばかりハ洩まじ心得たるか妹を仰せに妾ハ畏みて然どハ知らず兄上さへ不義淫奔に走りたまふか敢果なき事よと一筋に婦女の淺き心より推量りしぞ無禮なる其ハ幸ひに許してと只管託て過したる程もあらせず兄上ハ俄に阪地へお立と聞き心掛りの事さへあれバ國の爲にハ命をも捨るハ例し多かれど往々目的を遂げん爲急擧て思はぬ災厄に罹る事も多かれバ申すまでハなけれども時節の十分熟するを待たまひてとくれ〱もお諫め申して別れしに如何なる天魔の魅入しか聞くさへ眞實と思はれぬ嫌疑に依てさらぬだに露けき袖の旅路にて囹圄の人となりたまひハヤ半年をたつが弓引きも切らざるお調べを受ても未だ黒白の何れにあるかを分たぬとハ掛官のお方も恨しいト目下の兄の身の上を案じやりつゝ泣き唧ハ妹の心ぞ頼母しき折から母の聲として「お國や藥ハ出來たかへお國〱ト呼ぶ聲に娘ハ驚き身を起し泣顔見せじと汚たる襦袢の袖にて涙を拭ひ笑顔造りていそ〱と「母さまお目が覺ましたか何處もお苦しくハありませんかへ

筆者曰す本編ハ維新前の事也未何者の事蹟なるかを記さず且つ讀解にも及バざるハ欄内の行數限りあるに依れり暫らく次回の發兌を待つて其委しきを知りたまへかし

◎論説

○女學生の心得(前號の續き)　穗積陳重君演述

また西洋の若き婦人ハ平素讀みまする書物類にも餘ほど注意いたすやうであります詩歌小説の類にても或ハ遊女などの事が書いてありその他下品なる事を綴りし書類が棚にありてもこれを耻といたします然るに日本でハ男子にても人の面前で讀み兼るくらゐの人情本や草雙紙の類貴婦人令孃の纎々たる素手に觸れ居る事を見受る事がありますがこれハドウか止めて貰ひたい事でございます」斯やうにやかましく申したらバ道徳堅固の婦人がたハ　私に向つて斯と申さるゝのも知れません蓮ハ泥中にありても濁に染まず玉ハ瓦礫に混ずるも光を失はず我が志操さへ清淨潔白にして堅固ならバ假令一人にて男女混合の席に臨まうがお岩の芝居を見やうが人情本を讀まうが少しも婦徳を損する事ハあるまいと一應ハご尤もでございます然し是等の人々ハ現今敎育を受くる婦人ハ將來の婦人の風を作るといふ大責任あると忘却して居る人々です　諺にも「鵜の眞似をする烏ハ水を呑む」と申し貴孃方のごとき充分に水と潜り魚を捕るの伎倆ある人々が世の中の急流深淵を潜

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つて見せまするを世間の島娘等もこれに傚ひ事によると水を呑み飛んだ間違を生ずる事があります一身の爲には兎も角或は世人を誤る事が出來ませう彼の「西施の顰は傍醜これに傚ふ」との申し世の中にて一番高き教育を受けをらるゝ方にて美人に喩ふれば西施ともいふべき方々が顰みて觀せまそると近傍のお多福も矢張顏を顰めます」抑も我が邦にて女子の教育の貴きを知りしはこのごろの事にて女學の大切なといふ事だけは世人も稍々分りましたれども女子教育の結果はドウいふものであるといふ事はまた知りませんからろの實例として皆あなた方を見て居りますあなた方が天晴のものになッてお見せなさると世間は増々女子教育の大切なる事を信ずるに至りませう若しあなた方の結果思はしくなき時はまた／＼明治七年以來のごとく女子教育に多少の反動を招く事なしとも申されません思へばおもひますほどあなた方の責任は重うございます故にあなた方は志操の堅固なる事は彼の炭素のごとく奈何なる熱度に逢ッても溶解せずまたあしき元素と合して炭酸瓦斯の毒氣とならず或はダイヤモンドとなり或は石炭となりよく經濟と美術をあはせて花も實もある結果を生せん事を希望いたします

（完）

○女子の体育（前號の續き）

櫻井鋭二君　述

次に食物の量よりろの質に選りて少しくおはなし致しませう我が日本の婦人（貴孃方まで取除といたしまして）は兎角お芋ぐの冬瓜が好きでありますがこれはなるたけ止めてもらひたう存じます元來食物とゆすものは先きにも述べました通り一つには身躰の損毛を補ひ二つには躰溫を保ちまた三つには骨肉製造の材料となすべき爲のものなればあるたけ滋養分を要するは勿論の事でありますれば然ればこの滋養分を肉類のごときこれに富たるものより求むる方が得策でありまそが芋や冬瓜のごとき滋養分に乏しきものより求むる方が得策でありますか無論肉類のごときものを食する方倍々得策なる事は貴孃方もご承知でありませう併しろの理由は如何でありますか元來芋冬瓜のごときものは滋養分に乏しきがゆゑに身躰の要するだけの滋養分を得るには餘ほど多量を食せねばなりませぬ隨つて多量の無益物を消化そるが爲に貴重なる血液と勢力とを無益に費さゞるを得ませぬこれ即ち精神の發達或は骨肉製造の障となるべきものなれば生理上の不經濟といふより外ありませぬ」西洋にヴジタリアンと稱して野菜物のみを食し肉類魚類は一切これを食せぬといふ主義の人がありまそまた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

下等社會にては主義のある譯ではありませぬ金のないところから主に野菜物を食ひ肉類は勿論魚類にても至極稀れに食するものが澤山にあります今この種の人間と常に肉食するところの人とを比ぶれば甲種のものは常に身低くろの身躰柔弱にしてその精神もまた不活潑でありますがこれに反して乙種のものはその身高く筋肉よく發達してその精神の活潑なる事も遠く甲者の及ばざるところだと申す事でありまそ」今日本人を西洋人に比すればその食物は餘ほど滋養分に乏しいといはざるを得ませぬ●而してその身低くろの身躰の強壯なふざるその精神の不活潑なるを見れば彼と我との差は多く食物の別より生じたるものと思れます何となれば右に述べましたるごとく同じ人種の中にても食物の別に依てこの差を生じますればなり」動物に於ても矢張同樣な事實があります例へば牛は常に滋養分に乏しきところの草を多量に食ひまそに因てその消化器は實に大きく而してその足は割合に小さき故に身躰の重さを支へるが爲に夥たしく勢力を要し加之らず多量の無益物を消化する爲にまた多く勢力を徒費す故にその餘すところの勢力は甚だ少々でありますこの譯を以て牛は實に懶惰でまた實に不活潑なる動物であります」これに反して牛と殆んと同種の動物なる馬は豆ろの他滋養分に多少富みたるものを食するがゆゑにその消化器は割に少さく隨つて消化の爲に費すところの勢力も割りに少なければその運動の活潑なるろの精神の英敏なる遠く牛の及ばざるところでありまそ」また私はこの頃上野の動物園にゆきました時に氣がつきましたが肉食をする彼の虎の子は實に活潑にして斷えず獸圈の中を彼所此所と動き廻つて居ますがこれに反して羊とか綿羊とかいふ動物はその懶惰なる事實に言語に絶えたるほどであります」また同種類の動物中にても馬のごときものはろの飼ひやうに依て大なる差を生ずるものであります即ち競馬或は狩に用ふる馬はかならず善き食物を與へなければ役に立たなくなる由にてこれは馬飼ひたる人の善く知るところでありまそまた百姓馬は常に多く草を食ひ居るものなればろの消化器は大きくしてろの運動は隨ひて遲鈍でありまそ」斯の如く樣々の事實を考へて見ますれば我身躰の強壯なるもまた柔弱なるも餘程食物の善惡に關るものなれば生長盛り勉強盛りの貴孃方は極く食物にご注意なされて成丈滋養分に富なるたけ消化し易きものを召上るやう願しく存じます併し如何に肉類か宜い玉子が宜いといふても毎日く同じ肉類玉子のみを食して居ては

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いけませぬ其理由は我骨肉を組成する所の物質は種々の元素が樣々に結合して成たる物なれば其材料たる所の食物の成丈之を變交して飽の生せぬ樣注意するが緊要であります」茲に一つ申しおき度事は百姓共の壯健なる事であります百姓共は常に粗惡なる物を食そるに係らず概していへば壯健なる者でありますに由て食物は何でもよい抔といふ人があるかも知ませんが併し百姓は常に身躰を動し新鮮なる空氣を吸ひ又腦髓と左程勞しませぬ故に其無病なるも尤もでありまそ若し百姓の位地に在て善物と食したらんには實に強壯なる者を見るでありませう〔第二衣服の事〕衣服は元來何の爲に着るのでありますか其目的は先我體温の一樣なる事を保ので在ませう先にも申しました通り我身體から熱が斷ず去て居ますに由て是を成丈防ぐ爲に衣服を着ねば成ません加之らず薄着は宜く在ませんが薄着すれば熱の去樣が何しても餘計に成ます熱が餘計に去ば食物を餘計に食ねば成ませぬ食物を餘計に食れば勢力を餘計に費す譯なれば甚だ不經濟で在ます結り衣服は食物の一部といふても可なりで在ます故に「フラチル」の如き熱を導く力の弱き物を常に身體に着け充分温熱を保つ事が緊要であります

（未完）

◎新作物語

○閨の徹夜燈　第一篇　南翠外史　述

第三　孀婦の知己（つゞき）

凡そ物は悟ると多ければ樂しみ亦た加はるものにしてお覺も母が寢物語の活人畫の由來赤十字社の縁起などの如き我が耳に聽きつるとも胸に落ち心に悟るべうもあらぬ事柄とはうつて變りて最と哀れなる人の上の物語りとて面白く覺えければ其の次の日は枕に就くや否や詞せわしく後談をと望みけりお福美は徐ろに點頷つゝ「昨夜は鳥海總兵衛の紀念兒のお嘉稔が十五の春結号の良人といよ〳〵祝言と云やうどいふ時に其の良人が死去つた處まで話したのであつたから合夜の物語り其の後に起る事といふ事を承知しな」とて語り出けりかゝりしかば鳥海が孤兒の娘お嘉稔は三五の月の清き眉に頃しも彌生の花の色と含み東風待ちわびつる此の夜ごろ指かゞなへ幾夜寢なば妻となり良人と稱ばれなん幾日經なば耻かしき夢結ぶ夜を迎へんと人にはあけていは橋の夜るの契りをかぎろひの夢に見るまでにあくがれしものを如何難面き神の憎ましけんまだ春知らぬ蕾の花を開かで散れよ女株をのみ朝の

二百九十三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

露にさはらせて無常の風に散りよける良人を懷ひ追慕のこゝろ止む時なく泣涕でかれて涙の玉をつらぬかぬ日とては所詮幸薄う生れけるものを生てなまじひに火宅の苦艱を見んより死して來世の安樂を祈るべきか否々死ねばとて業因の滅すべうも思はれず生わるほどは生存へて見ぬ父上を始めまつり母上が冥福良人が菩提と弔ふこゝろ宜かんめれと婀娜氣なき少女氣に微妙くも思ひ決め萬圖て房々しき緑の黒髮を擴はんとしたりければ年老し管伴と始め叔母なりけるおふたも詞を盡し道理を責めて切に之れを押止め髮と拂ひ衣を變て浮屠沙門の道に入りつ拈華微笑のうちに現未來の二世安樂を祈らんと最と殊勝には聞ゆれども其もじは未だ三五の月の桂花咲かぬ身を西山の端に隱し入相の鐘に散らせばとて父母に孝良人に貞とは誰れかいはんや其もじ人の交りを斷ち家を棄て佛弟子とならんには鳥海の家は誰が襲ぐべきぞ心に信心を怠らねば夫にて神佛は惠め給せん父祖の家業と受繼ぎて繁榮と來たしなば是れに上越す追善供養はあるまじ能く此の處と思ひ辨へ給へと諫めければお嘉稔はふり落る涙の閑よりつくぐくと思ひ見るに實に叔母刀自の仰せふる〻如く此の身沙門に入りて菩提を弔へばとて家を失はゞ父祖の喜び享け給ふべき道は心を翫がへして出家の望みを斷つには及じとこゝに思ひ改めけり、斯てのちは年久しう仕へて物能く辨まへたる老人に店の事を委ねて我が身も及ぶ限りの力を協せければ老舖し家とて日を追ふて繁昌しつお嘉稔は斯る中にも雨の夜風の朝には何とて我が家には幸おき星の舍るぞや家の商ひはありしに劣りし事なけれども祖父祖母の年倘は老しといふにもあらぬに沒去給ひ父上は我が身の生る〻日に京都方へ赴きて生死さへも定かならず母上は其を氣よ病みて花わる御身を夜はの嵐に委せ給ひぬ然る中にて我が良人は二十年にも足らぬ身の惡しき病ひに侵されて悲しき御別れとはなりてけり何如せば此の祟りの除るべきや貧しきを救ひ汎く慈惠を施しなば幾千の罪を滅する事のあるべし物の本にて見たるとあり光明の皇后宮とやらんは比ひなき尊き御身よて在しましながら罪業消滅の爲めにとて千人の垢を流し給ふ滿圓結願の日に至り最と怪しの癩漢來つ瘡潰れてむさくるしき濃の流る〻背を押向けこを汲へよといふ皇后宮餘りに怪しのものなれば暫し躊躇ひ給ひけるが是れも佛の勸行なり自他平等一切解脫何でう厭ふ事やわると潔よくいへるがま〻になし果給ひければ此の癩兒こそ大慈大悲の觀世音菩薩が化身にて在しけるとなん書しるしね

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

よ一心歸依の功德ハ廣大無量なら
んに隨縁隨喜の淚をこそと思ひ立
ち鎭守の八幡宮成田山の不動明王
など暇ある每に參詣して途に憐れ
むべきものある時ハ之れ惠み縛ら
れたる犬の繩を解き魚鳥を放ちな
どして一向に慈悲善根をぞ計りけ
る、時しも頃ハ嚴冬三寒の枯落に
對ひけるゆゑ朝詣せばやとて夜明
ぬ程に參籠し朝暾の出て家に歸る
と一日も怠らず斯る程に一朝餘り
暗さに路を誤りて和倉の川岸に惑
ひ入りぬ這ハ過ちぬと思ひければ
元の道へ歸らんとする折年三ッ四
つとも思はるゝ兒の泣聲しぬるれ
バ這ハ怪し何れぞと材木のうちを
分け往けば輓近ハ珍しと見る髷結
ひて月代の迹長く延びたる四寸バ
かりの男身に襤褸の衣を纒ひ幼き

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

男兒を抱きて川岸より川に沈めんとすれば此人何者なれば愛らしき兒と無慈悲には捨んとするに人の門にも棄置なば拾ひ取りて育つる人のあるべきにと走り出でゝ侍女とゝもに右左りより其の手を押ふれば其人驚きて放ちてよと叫ぶお嘉稔ははや涙さしぐまれて這は淺まし足下物にや狂ひ給ふの人として生ながら水に行らんとは荒びに荒びし心にても爲すまじきに見つゝ何とて見過さるべき妾に命を賣りてたべ殺したまふな手をな放ちそと詞忙しく止めつゝ倩々と見るに其の子最と愛らしく氣高う生れつるが強き疱瘡に犯され本濃の發熱と見えて今は人事をも辨へず水を見ても恐れず只だ仰反て泣むづかるは熱の爲めに氣を失ひものとは見られたり

斯く語り來る折夜の太く更けたれば詞を止めて寢に就きけり

明る日は事なく暮れてまたも話しを繼ぐべき時刻とはなれり

お覺は閨の急がれ時計を目戍つめけるが生憎や此夜は亡き父が逮夜とて人の出入あり常より遲う臥床に入りぬお覺は母が機嫌を見て「アノお母さんお嘉稔さんとやらが其の疱瘡ッ兒を助けましたか其の叔父さんは聽ないで殺しましたか眞個に夫が氣に成てなりませんヨ」と語れよかしの問ひ事にお福美は莞爾とうち笑みて直ちに後談を語り繼ぎけり

◎家政要報

○フロリダ香水製法・フロリダ水の製法は九十度のアルコール三舛レモン精ポルチュガル精各々四オンス、ラヴェンドル精丁子精各々八オンス白桂半オンス水一舛二三合を調和して香水に用ふべし

○和洋衣服の價　去る十四日の時事新報に季節流行和洋衣服の價附と題し掲げたるを左に出そ

上等洋服の部　フロックコート(黑無地最上綾絨ら綾絹脊拔き袖裏甲斐絹總て上等仕立一ト組)廿七圓●チヨッキ(豫備品白紋リンチル)二圓五十錢●ヅボン(豫備品縞薄絨色鼠の類)五圓五十錢●スプリング、オーヴァーコート(ケントン)拾圓●下衣(薄地白フラチル上下)三圓九拾錢●白シヤツ(キヤラコ)二圓

上等和服の部　二枚重の袷(京縮緬または小紋縮緬なれば色は鼠返しの類裏花色秩父)廿五圓●袴(仙臺平半煉色又は茶藍万筋)九圓●羽織(絽縮緬色黑五ッ紋附)七圓五十錢●帶〆無地の黑博多)七圓●無雙繻絆(薄鼠縮緬)五圓五十錢

中等洋服の部　モーニングロート(縞又は黑の絹セル地裏

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

毛繻子總て上等仕立上げ一ト組)十四圓●ヅボン(豫備品薄絨の縞類又ハセル色鼠)四圓五十錢●スプリング、オーヴアーコート(薄セル地色鼠)六圓●下衣(薄地絹フラチル上下)三圓五十錢●白シヤツ(キヤラコ)一圓五十錢

中等和服の部　袷(一樂織色茶又ハ鼠縞)十一圓●袴(仙臺平藍又ハ茶万筋)七圓●羽織(黒紹三ッ紋)六圓●帶(表茶裏鐵納戸博多)四圓五十錢●繻絆(胴絹中形袖薄鼠縮緬)三圓

普通洋服　セビロ(縞セル地裏毛繻子袖裏甲一斐絹ト組)十圓　ズボン(豫備品縞薄絨)三圓八十錢●下衣(縞フラチル)二圓六十錢●白シヤツ(キヤラコ)七十五錢

普通和服　袷(節糸織縞藍茶鼠の類)六圓●羽織(壁紹の茶又ハ鼠縞)四圓●帶(博多表茶うら紺の縞の類)二圓五十錢●繻絆(胴木綿袖縮緬色鼠)一圓六十錢

とわりて皆男物と見えたり右よよれば上等洋服一揃五十圓九十錢同和服一揃五十四圓中等洋服一揃廿九圓五十錢同く和服一揃三十一圓五十錢普通洋服一揃十七圓十五錢同く和服一揃十四圓十錢にて和服より洋服の經濟につくを見るべし

○白米　(一等)一斗四升(二等)一斗四升六合(三等)一斗五升三合(四等)一斗六升七合(五等)一斗八升なり

◎御伽草

○數學問題(答ハ六月十日まで)

十二人にて四日七分の二に四反半の園を耕せり今八人にて五反の地を七日ト二時間よ耕したりといふ毎日勤むる時間幾何なるや(淸水參男君出題)

○考へものゝ題

左の詩(岡山秋蝶園主人出題)及び歌(無名氏出題)ハ本邦の人物中誰を詠ぜしや

龍笛聲収ヶ鳳詔傳フ○瑤琴彈歇ヶ想夫憐ム○無ㇾ端吹乱ル齒觀ノ夢○龍嶺ノ秋風月酷然○

うしと見し浮世の月も尋ね來て同じ庵にやどりぬるかな

○前々號數學問題答式

5
215
731　17　$= \frac{5}{17}$　答十七分ノ五(答者)東京中村秀一、山田とみ、金村なか、八王子杉山アサ、美濃撫箏女史、福岡廣田とめ

○前々號考物答

(甲)進上　水邊菖蒲　千年五月五日　大江爲武(答者)三河國寳飯郡麻生田村賀茂伍兜東京麹町貳番町好古散人

(乙)詩ハ兒嶋高德(答者)東京中村秀一、中村かね子、岩田つよ美濃撫箏女史、福岡廣田とめ長野縣諏訪郡遊座もと

歌ハ熊谷直實(答者)東京中村かね子、中村秀一、美濃撫箏女史福岡廣田とめ、長野縣諏訪郡遊座もと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎寄書

○伊勢物語ハ詞花言葉のみを事とせざる説

（前號の續き）

小石川　ろく子

また「鬼はや女をば一口にくひてけり」などいへるハかくばかり契りしなからひなるを御兄達のやかて昭宣公國經卿なとのいときびしく制し玉へるを喩へたるものにてやかて當時藤氏の威權の嚴なりしことをほのめかしたるなり末段にいたりて「むかし男いかなる事を思ひけるをりにかよめる「思ふ事いはでぞたゞにやみぬべきわれとひとしき人しなければ」といはれたるハ實にこの書の骨體一首の歌にあらはれつといふべし凡そその器ありて時にあはぬ人ハ我有二一寶劍一といひ白玉ハよししらずとも己れしれらばなどよみて和漢ともに慷慨悲憤こゝろハ異ならぬものなりけり彼にてハ演義小説といひここにハ物語といふそれ作り出る人ハ身の幸なきをなげき世を憤るあまりに昔の全盛なりし世をしのび今の時めく人をあざみなどして寓言にかけるもの多しこの書もたゞ當時の聞えをはゞかりてあらぬさまにかき僻めてこそあれ藤氏の專權を痛く惡みてものせるものなりされば終に我にひとしき人しなければといふやうに誇りかに歎きせられしてこそ後の世までも心やりとはなりつらめまた東降の事ハ先師達ハ三代實録文德實録公卿補任等のたしかなる國史に見えざれば取るにも足らぬ作り事なりといはれたれどそハ國史に泥みすぎたる僻見なりその條にもあらぬ事書きそへられたる事ハ論なけれど妾ハ國史にもれたる事のなかく\にこの書にのみつたはりたる事とこそ覺ゆれされば東降の事ハ古今集に載せられたるもこの物語とおなじきなりもとより古今集ハこの物語よりとりて載せられたるべけれど業平朝臣の卒せられし元慶四年より古今集のなれる延喜五年まではハ僅かに二十餘年なりもしあらぬ僻事なればその時勅選の古今集にそのまゝものせらるべうもあらず業平朝臣の陸奥の嶋の八十嶋めぐられしおもむきしるせりまた古事談にも關東へ下降せしことをあげたりまた續日本後紀に云嘉祥三年正月丙辰朔壬戌、授二無位在原朝臣業平從五位下一とあり此時廿五歳なり三代實録貞觀四年三月七日乙亥授二正六位上在原朝臣業平從五位上一とあり此時三十八歳なり文德實録にハ一所も所見なし從五位にとく叙せられたる人のかへりて一等と降して四十歳に及ぶまで六位にてあられけるハ唯に當時執政家の意に叶はざるのみならず二條后の事抔ありて後ハ暫く身をはふらかして東國に居られけるなるべし名にしおはゞいざ事とはん都鳥」の歌抔ハ遠き東國にありて其鳥の名につきて京人を思ひやれる歌なる事いふまでもなし其他此物語中に東國に流浪して年をへぬる證とすべきものいと多し且つ源氏物語總角の卷に在五が日記とあるを上田秋成よしやあしやハその物語なるべしといへどあるひハ東降の時の日記の別にありしも知るべからず大日本史にハ古今集によりて東降の事を業平の傳にあげられたりきかく論ひぬれば此物語ハ徒に詞花言葉の雅なるのみならずまた大に事實の取るべきもののある事ハ知られたりあはれ世の物語書を繙く人達に其作者の深意を究めずハ徒なる事のみと思ひ捨んゆめ此心をな忘れ玉ひそ今此物語の作者の深意の埋れぬるを痛むあまりに管見をも顧ず聊か記して博識なる君子の評を乞ひまつるになん

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

NEW NATIONAL FIRST READER.

READING REVIEW

I.

アイ シー ワン ドッグ エンド ツー キヤッツ　ヅー ユー シー ゼ
I see one dog and two cats. Do you see the
(一) (七) (二) (三) (四) (五) (六)　(十五) (一) (十三)

スリー ボルヅ イン ゼ ツリー エンド ゼ フォール ラッツ オン ゼ フローア
three birds in the tree, and the four rats on the floor?
(四) (五) (三) (二) (六) (九) (十) (八) (七)

II.

エース エンド アイ シー ゼ ニユー ドール マイ グード マ マ
Yes, and I see the new doll my good mamma
(一) (二) (三) (十五) (十) (十三) (四) (五) (六)

ゲーウ ツー アン　アイ ライキ ゼ ドール　イト イズ エ プレチー
gave to Ann. I like the doll. It is a pretty
(九) (八) (七)　(一) (二) (三)　(一) (四) (二)

ワン　メイ アイ テーキ イト ツー ライド
one. May I take it to ride?
(三)　(六) (一) (五) (四) (三) (二)

III.

オー エース エンド アイ ウヰル プット オン マイ ハツト エンド テーキ エ
O yes, and I will put on my hat and take a
(一) (二) (三) (四) (十三) (七) (八) (五) (六) (九) (十二)

ライド ツー　ヅー ユー シー ミー ウヰヅ マイ ドール
ride, too. Do you see me with my doll?
(十一) (十) (七) (一) (六) (五) (四) (二) (三)

ヅー ウヰー ナツト ライド フアスト　シー ゾース フアイヴ スノー
Do we not ride fast? See those five snow-
(四) (一) (五) (三) (二)　(七) (四) (五) (六)

ボルヅ イン ザツト ツリー　アール ゼイ ナツト プレチイ ボルヅ
birds in that tree Are they not pretty birds?
(三) (一) (二)　(四) (一) (五) (二) (三)

XX.

ヒヤ ロヴォル ヒヤ　ザツト イズ マイ ハツト　ヅー
Here, Bover, here! That is my hat! Do
(一) (二) (三)　(一) (四) (二) (三)　(九)

ナツト ラヌ オフ ウヰヅ イト
not run off with it!
(六) (四) (三) (二) (一)

ユー アール エ バツド ドツグ ツー ラヌ オフ ウヰツ マイ ハツト
You are a bad dog to run off with my hat.
(一) (十) (八) (九) (七) (六) (五) (四) (二) (三)

アイ ウヰル ナツト ハヴ ユー ウヰツ ミー イフ ユー アール ノツト エ
I will not have you with me if you are not a
(一) (十四) (十三) (十二) (十一) (十) (九) (八)(二) (三) (六) (七)

グード ドツグ
good dog.
(四) (五)

ユー バツド ドツグ　ホワイ ヂド ユー ゴー オフ ウヰヅ マイ
You bad dog! Why did you go off with my
(一) (二) (三)　(一) (八) (二) (七) (六) (五) (三)

ハツト
hat?
(四)

英語獨修

ニユーナシヨナルフアストリードル直譯

〔復習〕(一)私ハ(二)一の(三)犬ト(四)而て(五)二の(六)猫ヲ(七)見る●(一)汝ハ(二)樹ニ(三)於て、(四)三つの(五)小鳥、(六)而て(七)床ニ(八)於て、(九)四つの(十)鼠ヲ(十一)見(十二)爲す(の)●(一)然(二)而(三)私ハ(四)私ノ(五)善き(六)おッか樣ガ(七)アンニ(八)迄(九)與へし(十)新しき(十一)人形ヲ(十二)見る●(一)私ハ(二)人形ヲ(三)好む●(一)夫れハ(二)奇麗なる(三)人形デ(四)わる●(一)私ハ(二)乘ニ(三)まで(四)夫れヲ(五)取り(六)得る(か)●(一)オー(二)然り(三)而(四)私ハ(五)私ノ(六)ハットヲ(七)(八)着(九)而(十)また(十一)乘ヲ(十二)取るデ(十三)わらう●(一)汝ハ(二)私ノ(三)人形ヲ(四)持つ(五)私ヲ(六)見(七)爲そ(か)●(一)我々ハ(二)速に(三)乘り(四)爲さ(五)ぬ(か)●(一)其(二)木ニ(三)於て(四)夫れ等ノ(五)五の(六)スノーボルヅヲ(七)見(よ)●(一)彼等ハ(二)奇麗なる(三)小鳥ヲ(四)あら(五)ぬ(か)

〔第廿節〕(一)こゝ(よ)(二)ロヴォル(三)こゝ(よ)●(一)夫れ、(二)私ノ(三)ハットヲ(四)ある●(一)夫れヲ(二)以て(三)わちらに(四)走り(五)爲す(六)な●(一)汝ハ(二)私ノ(三)ハットヲ(四)持て(五)あちらに(六)走る(七)べく(八)悪き(九)犬デ(十)わる●(一)私ハ(二)若も(三)汝ガ(四)善き(五)犬デ(六)わら(七)ぬ(八)ならば(九)私ト(十)共に(十一)汝ヲ(十二)持た(十三)ぬデ(十四)あらう●(一)汝(二)悪しき(三)犬(よ)●(一)何故(二)汝ハ(三)私の(四)ハットヲ(五)以て(六)わちらへ(七)行き(八)爲せし(か)

二百九十九

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

○弘道叢錄改良廣告

弘道叢錄は古典國語和歌文章と研究そるに必要の書にして毎月一回會員に頒つ

○弘道叢錄は荷田岡部本居平田契仲等古今大家の著の未た上梓ならざる珍書を載す

○弘道叢錄第拾一輯發行大八洲學會雜誌の和歌評論を記す

●評者中村良顯●十一輯目錄●直毘靈神社本居宣長●假名沿革敷田年治●和歌死治論八田知紀●鉢木本據考尾崎正明

○弘道叢錄に和歌を登錄せんとする人は寄送すべし○歌題隨意

○弘道叢錄と望む人は金十錢送れば規約書を併せて送呈す

申込所 大坂大手通二丁目四番地 弘道會事務所

教科書專賣所廣告

○教育心理論 田中登作閲 教育書賣所普及舍編述 全一冊 定價金六錢

○理論術語詳解 山縣悌三郎譯補 全一冊 定價金二十錢宛

○理科仙鄕 自第一至第五 ペインター氏原著杉浦重剛譯 既刻全一冊 定價金二十錢宛

○教育全史 全五冊二ノ卷出版 定價二十五錢宛

○倫理通論 文學士井上圓了著 全二冊二ノ卷出版 定價金二十五錢宛

大賣捌 大坂備后町一丁目 梅原龜七
全心齋橋通り 前川善兵衛
全北久太郎町四丁目 柳原嘉兵衛
全本町四丁目 岡嶋眞七

教科書發兌元 東京下谷區練塀町十四番地 普及舍

●ともどちにつげまゐらすいまよりさけとたばことをつゝしみやめる●たゞしさけをのまねばならぬつきあひはさらにしやせつず

五ぐわつ一にち うぢ、はるちよ

●國民の教育 毎月四回發行 十部前金四拾五錢

本誌ハ凡ソ國民ノ教育上ニ關スル中外諸家ノ論説ヲ始トシ官報及ヒ府縣ノ通信歐米各國の來報等ヲ網羅薈萃シタル者ニシテ實ニ全國教育家必覽ノ好誌ナリ即今發刊願中ニ付不日允准次第逐號印布可仕候此段豫テ稟告仕置候也

馬喰町 石川書舖

本誌代價表

	正價	此郵税
壹冊	金四錢	壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵劵代用ハ壹錢切手ニて一割増し●郵便爲替劵ハ芝區芝口郵便局へ御振込み共爲替劵と本舍へ御送附可被下候 但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所 東京京橋區南鍋町弐丁目拾壹番地 績文舍

持主兼印刷人 松本義弘

編輯人 初鹿野錦五郎

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY